

## 22 MW: Negros Occidental (フィリピン)

San Carlos Solar Energy Inc. (SACASOL) は、2013 年の第 4 四半期に、Negros Occidental に総発電量 22 メガワット、年間 35,000 メガワットアワーの太陽光発電所の設計および設置を依頼する契約を Conergy と結びました。

このプロジェクトは、現地のクリーンエネルギー開発会社 Bronzoak Philippines と、欧州を拠点とする資産管理 / プロジェクトファイナンスグループの完全出資会社 ThomasLloyd の合併事業です。この太陽光発電所の建設は現在、San Carlos City の隣接した 2 箇所の現場において、2 つのフェーズで進められています。フェーズ 1 での発電量は 13 メガワット、フェーズ 2 では 9 メガワットです。

このように、Philippines は、公益事業規模の太陽光発電プロジェクトに非常に魅力的な市場機会を与えています。SACASOL はフィリピンにとって画期的プロジェクトであり、2008 年の Renewable Energy Act で制定された固定価格買取制度の初の適用対象となる予定です。ThomasLloyd の会長兼 CEO である T.U. Michael Sieg, 氏は、「現場の建設から始まった我々のプロジェクトは、2014 年の第 2 四半期には完全に営利目的の運営を開始する予定です」と述べています。

さらに、Bronzoak Philippines の社長 Jose Maria P. Zabaleta 氏の言葉によると、「私たちがパートナーとして Conergy を選んだわけは、Conergy はここアジアでの太陽光発電プロジェクトの実現において、見事な実績を確立しているからです。

Conergy は 2006 年にアジアパシフィック地域の市場に進出して以来、アジアにおける 100 メガワットを超える大規模プロジェクトの受注に次々と成功してきました。Conergy Asia & ME の社長 Alexander Lenz はこのように述べています。「フィリピンは、熱帯国の 1 つとしてほぼ一年中太陽の光に溢れているため、この国にも太陽光エネルギーに非常に大きな将来性があります。このことから、Conergy では長い間、フィリピンでの太陽光発電リソースの開発を待ち望んでいました。したがって、SACASOL がフィリピン初の大規模プロジェクトを計画する機会を与えてくれたことに、非常に感謝し光栄に思っています」。そしてこのように強調しました。「現在、公益事業規模の太陽光発電は可能になっているため、この施設によって、太陽光エネルギーがフィリピン全体のエネルギー事情に大きく貢献することを期待しています」。Conergy は目下、パートナーである SCHEMA Konsult Inc. と協力して SACASOL プロジェクトに取り組んでいます。



### プロジェクトの概要

時期	2014年6月	
場所	San Carlos City, Negros Occidental(フィリピン)	
設備容量	22メガワット	
年間発電量(メガワット)	年間35,000メガワットアワー	
モジュール	88,300個のConergy PH結晶モジュール	
パワーコンディショナー	22基のセントラルパワーコンディショナー	
架台システム	Conergy Solar Linea II	
発電所規模	350,000平方メートル	
二酸化炭素削減量	年間18,820トン	

世界はエネルギーに満ちている。